

患者の皆様へ

2022年4月30日 消化器内科

現在、消化器内科では、「悪性腫瘍に対する免疫療法による肝障害の病態解明」という研究を行っています。今後の診断や治療に役立てることを目的に、この研究は、令和4年3月31日までの期間において、悪性腫瘍に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用した患者さんを対象としております。

1. 研究課題名：「悪性腫瘍に対する免疫療法による肝障害の病態解明」

2. 研究の意義・目的：

近年、悪性腫瘍に対する治療法は変化しています。免疫チェックポイント阻害薬の適応が悪性黒色腫から始まり、徐々に使用できる癌の種類が増えてきています。2020年10月には肝細胞癌に対しても使用が可能となりました。それに伴い代表的な副作用である、免疫関連有害事象（irAE）に対するマネージメントが必要とされています。IrAEのうち肝障害は採血だけでは診断が難しく、また治療にも苦慮する場合があります。今回、肝細胞癌だけでなく他の種類の癌を含めirAEによる肝障害の発生率だけでなく、発症する背景、治療への反応等を明らかにすることを目的として本研究を計画しました。カルテの確認による患者さんのデータの収集・解析を行います。

3. 研究の方法：研究期間は、2025年3月31日までです。カルテの確認により臨床データ（身長、体重、合併症、治療反応性、血液生化学データ、画像データ、病理組織所見など）を収集し、データの解析を行います。

4. 個人情報の取り扱いについて：提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されますので、個人情報外部に漏れることは一切ありません。この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、お名前など個人情報に関することが外部に漏れることは一切ありません。

千葉大学大学院医学部研究員・医学部による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関：千葉大学医学部附属病院消化器内科

本件のお問合せ先：医学部附属病院消化器内科

医師 加藤直也，小笠原定久，叶川直哉，興梶慧輔，中川美由貴

043（222）7171 内線 5241（消化器内科医局）